

公認会計士法友会会報

公認会計士法友会

第25号

平成31年1月1日

平成29年度定期総会・研修会を開催 (P.10)



平成30年度公認会計士試験合格祝賀会及び会員研修会のお知らせ

(日時) 平成31年1月26日(土)

会員研修会 受付 15:00 講演 15:30

場所:ポアソナード・タワー25階 B会議室

演題:「収益認識に関する会計基準(税務的な視点も含めて)」(仮)

講師:山口 広志 氏 (あいわ税理士法人)

合格祝賀会 受付 17:30 開宴 18:00

法政大学 外濠校舎6階 薩埵ホール

(会費)公認会計士 10,000円

試験合格者及び会計士補 5,000円

※該金額のうち5,000円は平成30年度会費に充当いたします。
出欠席のご連絡は、送付しております往復ハガキもしくはメールにてお願いいたします。

目次

会長挨拶	2	「第26回法政大学全国卒業生の集い千葉大会」	10
平成29年度公認会計士試験合格者の近況	4	祝 東京六大学野球リーグ戦 6年ぶり優勝!	11
雑感	6	各種参加報告	12
「法政士業の会」便り	7	「2018年簿記チャンピオン大会開催」	14
寄附講座「実践会社実務論」終了報告	8	全国大会会計人会サミット	15
ゴルフ大会	9	年度会費及び寄付金のご協力のお願い	16
平成29年度定期総会報告・決議概要	9	編集後記	16

同封物:会報、郵便口座振替用紙

会長挨拶

会長 太田 莊一(昭和52年卒)



公認会計士法友会の会員の皆様、新年のご祝詞を申し上げます。

各位の各方面でのご活躍をお慶び申し上げます。2019年が皆様にとりまして輝かしい年でありますことを祈念いたします。

弊職も既に3年半が経とうとしております。この間、会員の皆様には、多大なるご支援とご賛同をいただき、誠にありがとうございました。毎年決まったように貴重な浄財をご寄附いただいている会員、また、総会、祝賀会等の行事には必ずご出席いただいている会員各位には、誠に感謝に堪えません。

おかげ様で近年、法政大学の内外において公認会計士法友会のプレゼンスを更に高めることができていることは、会員の皆様方のご協力・ご賛同と、河西事務局長をはじめとする役員各位のご尽力の賜物であると深く感謝申し上げます。

法友会の『会員の相互交流・親睦を深めるとともに、母校の発展と後進の育成に貢献する』という目的に基づき、就任時の「初心」に則り、新しい若い世代の会員への橋渡し役になるべく、力不足ながらも、各位のご協力によりなんとか務めさせていただいておりますが、今後とも、会員の皆様からのご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

2018年8月から12月までの最近の法友会活動についてご報告いたします。

【「法政士業の会」活動対応について】

2018年11月17日に、「法政士業の会」の第2回定期総会・講演会・懇親会が開催されました。(詳細については、後掲の記事ご参照。また、一般社団法人校友会HPの紹介記事や法政フォトジャーナルをご覧ください。)

法政士業の会の最近の主な活動としては、前号でご紹介しました付属校(法政大学中高、二中高、国際(旧女子)高)の内部進学者ガイダンスに若手士業(弁護士、公認会計士、不動産鑑定士等)が経験談を語るイベントに当会員の若手会計士(伊藤章子会員と川瀬博之会員)が講師を務め、高校生が公認会計士を目指す大きなキッカケになったのではないかと思います。この活動は今後も継続いたしますので、付属校出身の会員諸氏におかれましては、是非、次回の講師をお願いいたします。

公認会計士法友会としては今後とも法政士業の会の活動に積極的に関わっていきますので、ぜひご協力ご賛同のほどお願い申し上げます。

【寄附講座の開講と今後について】

『母校の発展と後進の育成』という法友会の目的の活動として、いちばん注力してきました経営学部の公開講座としての寄附講座『実践会社実務論』を昨年9月からの秋学期に引き続き、本年4月からの春学期も開講いたしました。

これまでと同様、実務の第一線で活躍している当会員の公認会計士14名が、毎回、実務のトピックなテーマについて熱気こもる授業を学生に分かりやすく講義していただきました。(詳細については、後掲の記事ご参照。)今回もお忙しい中、講師をお引き受けいただきました会員各位には本当に感謝申し上げます。

なお、寄附講座「実践会社実務論」は通算で5期(4年)開講いたしましたので、来年度は一旦お休みし、しばらく時間をかけて、今後の寄附講座としての方針や目的、内容等をリニューアルしたいと考えております。今後は、さらに若手の会員に講師をお願いしたいと思いますので、是非ともご協力のほどお願いいたします。

【会員寄付活動の拡充と受験生への経済的支援について】

今後、特に注力していきたい活動といたしましては、会員の皆様からのご寄付浄財をいかにして拡充していくかという課題に対する対応です。法友会活動は会員の皆様からの会費・寄付金の浄財により成り立っています。昨今、会員の高齢化とご寄付賛助者数の減少により、当会の財政収入にも少なからず影響が出ております。一方、活動の範囲はますます拡大しており、特に、一昨年度より給付実行しております法政大学高度会計人育成センター主催の簿記チャンピオン大会成績優秀者に対する公認会計士試験受験のための「奨学支援金制度」については、今年も継続して対象者に給付を行っております。(詳細は後掲記事ご参照。)

なお、今年の現役合格者のうちの2名の方は、昨年度までこの奨学支援金の対象者として給付を受け、それを源資に勉学され、今回見事に合格されたとの嬉しいニュースが入ってきました。

これを今後さらに充実したものにしていくためには、その原資として会員の皆様方からのご寄付浄財が不可欠であります。本学から公認会計士を目指す学生の経済的支援のための活動を益々拡充していきたいと思っておりますので、会員の皆様には、是非ともご理解とご協力のほどお願いいたします。

【公認会計士試験合格を目指す本学の学生について】

現在、大学監事(非常勤)という立場上、本学が目指す教育研究の理念や学生に対する支援体制といったものに関わる機会が多いことから、少しご紹介したいと思っております。法政大学は「自由と進歩」を校風とし、現在の田中優子総長のもと、全ての学生に対してグローバルな立場から「自由を生き抜く実践知」の習得を標榜しています。ここでいう「自由」や「実践知」の意味する内容については別稿に譲るとして、

我々公認会計士は、まさに自由業(独立した責任ある立場という意味で)として、グローバルな実務経験に基づく実践力をもって、経済社会に対して貢献していくことでは、まさに法政大学が目指す人財そのものであり、そのことを認識したうえで、法政大学が公認会計士の育成支援にもっと注力することが必要であり、我々法政OBの公認会計士としては積極的にそのことを大学及び学生に知らしめることが求められているのではないかと考えます。

近年、本学出身の公認会計士試験合格者が減少傾向にあるのは、やはり、3年前に法政大学会計専門職大学院が閉校になり、本学から受験合格を目指す学生も少なくなっていることが一番大きな要因であると思います。

このままでは実学主義のライバル大学に後れをとるばかりであります。

大学に対しては公認会計士を目指す学生の受験環境体制の整備や奨学金制度等のより一層の支援対応を粘り強く要望していくとともに、我々OBとしては、公認会計士を目指す学生を増やし、受験する学生のために何ができるかを改めて考えなおし、実践していくことが強く求められているものと考えます。

会員の皆様からのご指導ご鞭撻と熱いご協力をお願いするところであります。

【法政大学校友会への協力について】

一般社団法人法政大学校友会におきましては、会員の皆様方のご協力ご賛同により公認会計士法友会の終身会員登録者が現在合計83名ということで、2017年度より実施されましたブロック制度において、職域団体の「土業の会」ブロックの最大のパートナー組織として、更にプレゼンスを高めることができました。今年度はこれをさらに拡大して100名を超える規模の終身会員登録を目指して活動していく方針ですので、このための資金も必要となります。何卒よろしくご協力のほどお願いいたします。

また、来年4月から「年度同期会員」(2014年3月以降の卒業生は卒業後5年間は各OB団体には所属せずに年期同期会所属)となっている若手会員を公認会計士法友会が受入れる(所属変更)こととなりますので、更に7名の終身登録会

員の増員が見込まれます。これから毎年該当する若手会員が増加していきます。各位にはぜひご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、当法友会の和食克雄顧問が引き続き校友会理事(「土業の会」代表ブロック長)に、矢部豊副会長が校友会監事を継続されております。母校の発展のために更に活動を強めていくこととなりますので、会員の皆様にはご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

今年も1,300名を超える試験合格者が輩出され、当法友会にも多くの新しい仲間が増えました。2019年1月26日(土)には、外濠校舎薩埵ホールに於いて、当会主催による公認会計士試験合格祝賀会を開催いたします。

ぜひ多数の会員の皆様のご出席されることをお願いいたします。

将来のある若い皆さんが生き活きとして集い結べる業界・魅力ある土業となるよう、法友会としてもまだまだやるべきことはたくさんあります。

最後に、2018年10月5日6日に地元で開催されました校友会主催の「全国卒業生の集い千葉大会」に参加してまいりました。(詳細は、後掲記事ご参照ください。)

毎年の法政卒業生の全国大会も今年で27回目を数えています。単なる親睦団体から脱し、母校と後輩たちのために行動しようとする法政卒業生各位の熱意と我々の責任の重さを感じと認識させられる場になりました。

最後の締めは、全員での校歌とエールでした。「フー！！フー！！法政 ガンバレ！！ガンバレ！！法政OB」



※第26回 法政大学 全国卒業生の集い 千葉大会

平成29年度公認会計士試験合格者の近況

合格者の近況を自ら報告していただくコーナーです。

●北菌俊輔(平成28年卒)

・はじめに

法友会の皆様、いつもお世話になっております、北菌俊輔と申します。私は、法政大学経営学部からの卒業、会計大学院イノベーションマネジメント研究科への入学を機に、公認会計士試験合格を目指し勉強に励み、現在勤めているPwCあらた有限責任監査法人にインターンアシスタントとして働きながら2017年度の公認会計士試験に合格いたしました。早いもので、合格から1年を迎えようとしております。

・公認会計士を目指した理由

私が公認会計士を目指した理由は、高校3年時の志望大学を決める際に、両親が薬剤師、看護師ということもあり、国家資格を取得できるような進路に進みたいと思ったからです。公認会計士という、会計、監査等の専門家としてクライアントから頼られるような姿に憧れ、クライアントという会社そのものだけでなくそこに勤めている従業員の方々の手助けとなるような存在になりたいと思いました。今、当時を振り返ってみても、公認会計士を目指したことは間違っていないかと思います。

・受験生活

私は、PwCあらた有限責任監査法人にインターンアシスタントという非正規雇用で働きながらでの受験勉強でしたので、定時に帰宅後に専門学校で1日3,4時間勉強をするというライフサイクルを過ごしておりました。繁忙期においては、平日の勉強は難しかったため、休日のみの勉強となっておりました。そのため、他の受験生よりも勉強が可能な時間が限られている関係上、効率的に勉強しなければならないというプレッシャーを感じながらの日々でしたが、幣法人の上司や同期、大学院時代の恩師や友人の助言を励みに、勉強いたしました。

両親、友人、恩師や上司に合格を報告した際には、自分のことのように祝福していただき、大変だった受験生活が報われたと思ったとともに、これから公認会計士として、プロフェッショナルとして、日々精進し恩返ししていかなければな

らないと思いました。

・監査法人での業務

私は、前述の通り、公認会計士試験合格前より監査法人で働いていましたので、現在、他の同年度の合格者達よりも比較的高度な業務に携わる機会を多くいただいております。その分やりがいも感じますが、自分で考え仕事をしなければならない責任も増えたので、日々勉強に励み自分自身の価値を高めていかなければならないと実感する毎日です。また、実務においては、クライアントが属する取引慣行や適用される会計基準等、公認会計士試験では出題されないような事例も多数あり、自分よりもクライアントの方の方がそういった事例に詳しいことが珍しくないため、そういった意味でも勉強に励み、クライアントから信頼されるような人物になりたいと思います。

また、昨今のITの発展に伴い、日常生活に伴うあらゆる取引、業務がAIに置き換わっており、監査業務やクライアントの取引の在り様が変わってきております。そういったものの変化に、敏感に反応し、見極め、自身の業務に取り入れ、順応していきたいと思っております。さらには、ITに伴う変化だけでなく、各クライアントのIFRS,US-GAAPの導入などのグローバル化に伴う変化、ASC606やIFRS15の収益認識基準の変更など世界全体を巻き込んだ変化も進んでおります。4大監査法人では英語を話すことは当然できるものとして求められますので、監査や会計の分野のみならず、それらの根本にあるクライアントとコミュニケーションを通じての信頼関係を構築するため、英語の勉強等もしていかなければならないと思っております。

日々、会計、監査を取り巻く環境は変化しつづけているので、取り残されないよう注意し、業務に携わっていかなければと思います。

・さいごに

大学院を卒業して以来、市ヶ谷キャンパスには訪れておりませんが、補習所等に訪れる際にはキャンパスにも立ち寄り、初心を思い出し忘れずに日々精進していきたいと思っております。まだまだ、諸先輩方の足元にも及ばない若輩者ですが、日々精進してまいりますので、心配事や困ったことがあれば助言等をいただければと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



●花房知子(平成21年卒)

法友会の皆様、いつもお世話になっております。平成21年法学部法律学科卒、平成29年度公認会計士試験合格の花房知子と申します。現在は有限責任監査法人トーマツで監査業務に従事しております。

■公認会計士を目指したきっかけ

会計を学ぶことを最初に意識したのは大学時代に遡ります。私が法学部の学生だった頃、会社法の授業で財務諸表の知識が必要な項目がありました。当時の私には会計の知識がなかったためその内容を理解することが出来ず、その際、財務諸表を読むようになりたい、会計や経済のニュースを理解できるようになりたい、と強く思いました。実際に受験勉強を始めたのは大学卒業後ですが、専門職を志すにあたり会計士を選んだ理由には、この時の思いの影響が強かったように感じております。

■受験生活について

会計士を志したものの簿記にふれることが初めてだったため、こんなにも自分は会計の知識がなかったのか！と驚くことばかりでした。もともと法学部出身だったこともあり、論述式の試験にはある程度の自信がありました。そのため「論文式試験に進めれば合格できる」という思いで勉強を開始しましたが、短答式試験で苦戦してしまいました。あとほんの少し足りずに合格できないことを繰り返し相当参りましたが、論述式試験に進みさえすれば…という一心で勉強を続けました。合格発表の日、私は自分で結果を見る勇気がなく、予備校でお世話になった先生に先に見て頂き、合格したことを教えて頂きました。その時は嬉しさがこみ上げるより先に大きな安堵感に包まれたというのが率直な感想です。

■現在の活動

受験勉強中は監査法人で働くことを希望しておりましたが、具体的な自分の将来像を思い描くところまでには至っていませんでした。どういった分野・業界に携わりたいかは就職活動を通じて固まっていたように思います。その中でパブリック業務への関与を志望するようになりましたが、様々



な方とお話をさせて頂く中で、まずは一般事業会社の監査をしっかり学んでからパブリック業務に携わりたいと考えました。

現在は製造業の会社に主に関与しております。業務を通じて、監査論で学んだことが実務では具体的にどのように運用されているのか検討することは大変興味深くもあり、また会計士という職業の責任の重さを痛感する毎日です。一般事業会社に関与す

る一方で、パブリックの業務にも一部携わらせて頂いております。期末は独立行政法人に行かせて頂きましたが、一般事業会社との違いが想像以上に大きく、先輩方についていくためには勉強することが沢山あることを実感致しました。

クライアントとのコミュニケーションは思いの外難しく、毎回反省点が見つかります。先輩方からクライアントに合わせた適切な対応ができるようになるためには、とにかく経験を積むことが大切、とのアドバイスを頂戴し、積極的にコミュニケーションを取れるように努力する日々です。

■プライベート

受験期間が長引きストイックな生活に慣れきってしまったため、旅行や自分へのご褒美等のちょっとした贅沢から縁遠い生活しております。そのせいか休日はごろごろのんびりしている多く、そのため「休みの日は何をしているの?」と聞かれると返答に困ってしまうことがよくあります。今後の課題は、きちんと計画を立てて休日を充実させることです。

趣味は読書と編みぐるみを作ることです。受験時代、精神的に行き詰まるとよく読書をしていました。自分の生活と全然違う世界の本を読むことは頭の切り替えに大変役立ってくれました。編みぐるみ作りが趣味になったのは論文式試験終了後合格発表までの間です。手ごたえがない科目もあり合格の自信がなく、この期間は精神的にとっても辛い日々でした。何かに没頭することで気を紛らわせたくなり、手に取ったのが編みぐるみ作りの本でした。立体を編むためには編目の数を間違えるわけにはいかないことに加え、編目自体をきれいに揃える必要があります。ひたすら編み続けることで心の安定に努めていました。写真はその時に作ったクマです。受験時代ずっと支えてくれた友人にプレゼントしました。



■最後に

大学時代は友人や先生方に恵まれ、大変楽しい日々を過ごさせて頂きました。法政大学は思い出深い場所であり、卒業後も法友会の皆様を通じて大学と繋がっていることを有難く思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

雑感

高村 茂(昭和48年卒)



現在、私は生まれ故郷である山中湖に住んでいます。
実は三年前に脳梗塞を患ってしまい、私の人生プラン(山中湖を終の棲み家)に狂いが生じてしまいました。

主治医から「寒暖差の激しい環境での生活はなるべく避けて下さい」と言われて、悩みに悩んだ末に、私の出した結論は、「責めて後期高齢者になるまでは、山中湖に一日でも長く住み、その後は便利で暖かい東京に戻ろう」でした。

お世話になった和食先輩を初め皆様には、急な行動で、ろくな挨拶もせずの転居で、大変失礼しました。新年の合格祝賀会に出席し、改めてご挨拶させて頂きたいと思っております。

此度、太田会長より近況報告を兼ねて会報への寄稿を依頼されましたので、暇つぶしに、この原稿を書き始めました。

11月中旬の山中湖は、紅葉も終わり、朝晩の気温が氷点下近くとなり、日中でも10度前後と肌寒い日が続きます。庭の木々は既に葉を落とし、冬支度を済ませておりますが、私はこれからです(真冬にはマイナス15℃位にはなりません)。

皆さん、緑に囲まれ自然豊かな田舎に住むのも中々大変ですよ。

実は1ヶ月ほど前に、下水道管が詰まり業者を呼んだところ、我が家のそれに、コブシの根っ子が入り込み、管が完全に目詰まりし、配管の交換工事して貰いました。都会ではあり得ない事です。緑を大切に私ですが、渋々コブシの木を切りました。

また、枯れ葉の後片付けも中々の重労働で、1日朝晩の2回行います。昔なら自宅の庭で燃やすか、腐葉土の資源として業者が回収してくれましたが、今では環境問題とかで、焚き火は禁止、すべてゴミ扱いです。

買い物は、近所にスーパーマーケット、ドラッグストア、百均及びコンビニがあり、贅沢を言わなければ、何とかあります。但し、外食できるお店がデニース位しかないので苦労しております。美味しいものを食べようとしたら、富士吉田市か、御殿場市まで行かなくてはなりません。皆さん、自炊出来るようにしておいて下さい。外食は飽きますよ。栄養が片寄せますよ。

改めて、母親、妻、彼女、彼?に感謝しましょう。

生活の足ですが、何処に移動するのも車です。私のゴルフの飛距離が落ちたのも、このせいです。(近くのコンビニに行くのも車です。私が歩いていると、突然車が寄って来て、何処に行くの?じゃあ一緒に乗って行けと言った具合です)

遊びですが、近くにはゴルフ場、サイクリング・ハイキングコース、スキー場、温泉等があり、遊ぶ場所には事欠きませんが、遊んでくれる相手が余りおりません。地元の友達を誘えば、一度は良く来たなどと言って歓迎してくれますが、二度目に行くと嫌味を言われます。

「会計士は暇と金があり羨ましい限りだ。我々庶民は一生懸命に働かねば生きて行けない」と。

その点、山中湖に別荘を持っている高齢者は違います。彼等にとって地元の情報に詳しい私は、願ってもない遊び相手のようです。自己紹介で元公認会計士ですと言うと、その一言で信用して頂けます。

元ですか?何かあったのですか?

定年がないのでしょうか?

社外監査役とか?取締役とか?もっと働けるでしょう。

と言った野暮な質問もありません。本当に有難い事です。

〇〇先生を知っていますか?

〇〇監査法人を知っていますか?

私は〇〇先生と大学が同窓ですよ。

〇〇監査法人には、お世話になっておりましたよ。

山中湖には、戦前から大学寮があった為か、別荘を建てるなら、青春時代を過ごした山中湖にしたいと思っている人が多いようです。山中湖はゴルフの盛んな村であり、毎年春には村民ゴルフ大会が開催されており、私は昨年度・グロス81(39・42)で第6位となりましたが、上位5名に入れず、村の代表として県大会に出場できませんでした。

私の実力を知っている皆様ですから?山中湖村のゴルフレベルは相当低いと思われる事でしょうが、全くその通りです。なお、ホテルマウントF(皇族、首相等が宿泊する高級ホテル)の総支配人は、本学の出身者です。何時の日か法友会のゴル



フコンペを同ホテルに宿泊し、Fゴルフコース(A総理も良く来ていますよ・スコアは国家機密)で、出来たら良いなと思っております。

仕事をリタイアした頃は、毎日のスケジュール表が埋まっていないと、何となく不安になりましたが、今では慣れ、朝起きた時の気分次第で、天気も良く、風もないのであれば、ゴルフに行くか？ハイキングに行くか？それともサイクリングにするか？風があれば、ヨットハーバーに行くか？全く風任せの日々を過ごしております。

山中湖からの風の便りでした。

追伸:富士吉田市には、激安の殿堂D社、紳士服のA社、回転寿司のS社など私の関与した会社のお店があり、時々は中を覗いて、客入りを気にしています。会計士を辞めても、気分は何時までも会計士ですね。



「法政士業の会」便り

山田 努(昭和59年卒)

新しい仲間が増えました！ **歓迎 法政司法書士会**

6番目の専門士業団体として「法政司法書士会」が法政士業の会に加入されました。

法政士業の会よりも歴史の古い明治大学「明士会」は、社会保険労務士の団体も加入しており、7団体で構成されているそうです。法政大学出身の専門士業団体のネットワークがさらに広がっていくことを期待しています。

・法政士業の会の活動

① 校友向けの活動

2018年11月に九段校舎で校友会が開催した「お困りごと相談会」を共催しました。

関東在住以外の方々のご相談にも対応できるように校友会の全国大会での実施可能性を検討中です。2019年の校友会全国大会は徳島県で行われます。四国・関西方面在住の公認会計士法友会の会員の方々にもご協力いただければ幸いです。

② 法政大学進学内定者向けの活動

昨年度に引き続き今年度も、付属校からの法政大学進学内定者向けに専門士業を紹介するガイダンスの開催準備に入りました。

付属校の生徒さんのキャリアプランの選択肢を拡げるとともに、数年後の公認会計士試験及び他の専門士業資格試験における法政大学の受験者・合格者の増加に結び付くことを期待しています。若手会員の方々には体験談などは是非ご協力を頂きたいと思っています。

・会員相互間の活動

(1) 研修・講演

各士業団体が開催している研修に相互乗り入れできます。

興味・関心のある他士業団体の研修・講演会に参加ご希望の方は、事務局にお問い合わせください。不動産鑑定士橙法会では定期総会講演を他士業の専門家に依頼されており、2017年の行政書士オレンジ会・吉田会長の講演に続き、2018年は私が「不動産取引と企業会計・監査」という演題で講演させていただきました。

(2) 懇親会

2018年6月に第1回ビジネス交流会を開催しました。
各士業から22名参加し自己紹介のあと、ダーツやビリヤードなどで懇親を深めました。

今後も継続して開催していく予定であり、公認会計士の中でも個人開業されている方や組織内会計士の方には特にお勧めです。

寄附講座「実践会社実務論」終了報告

川村敬史(平成18年卒)

公認会計士法友会会員が母校法政大学の学生に会社実務を分かりやすく説明しつつ公認会計士の業務を紹介する寄附講座「実践会社実務論」が2018年7月19日に最終回の講義を終え無事終了しました。

2018年4月12日に始まり全14回の講義を3ヶ月間にわたって毎週木曜日2時限目に100分授業で実施してまいりましたが時が経つのは早いものです。

市ヶ谷キャンパス内で着々と新キャンパス建設に向けて工事が進められていく中での講義でしたが本年度も集中力を持って熱心に講師の声に耳を傾け真剣に授業を受ける姿の学生がほとんどでした。

このところ法政大学の人気度は上昇傾向にあり文部科学省による東京23区内の大学定員抑制政策の影響もあってかずいぶんと法政大学の入試難易度も難しくなりました。それもあってか優秀な学生が増えてきたような気がします。

ところで今期の寄附講座では紙面による講義レジュメの配布を再開しました。

以前は紙資源の節約のため授業支援システムに当日行われる講義のレジュメを事前にアップロードしそれを受講生各自が印刷して授業に持参するという方式でしたが、パソコンとプリンターを持っておらずインターネットの閲覧など全てスマートフォンで済ませるといった学生が多く、教室のスライドから遠く、かつ、講義レジュメを持参していない受講生にとっては受講しづらいといった点があったためです。

パソコンでなく画面の小さいスマホで不便ではないのか？ワードやエクセルは使わないのか？とは思いましたが時代も変わったものです。

今期の寄附講座でも天候等にかかわらず毎回120名近い受講生が安定して集まりました。そのため印刷が必要な部数も多くなりましたが大学事務局には10日前には印刷用の原稿を提出しなければならないといった制約があり講師の皆様にはお忙しい中でご対応いただくことになってしまいました。繁忙期にもかかわらずご対応いただきありがとうございます。

また寄附講座の期末レポートで出題と採点を担当して下さった講師の皆様にも感謝申し上げます。

期末レポートは全14回の講義のうち7回分の講義から課題を出し、7つの課題のうちから一つを選択して提出するという形式でしたが、課題によっては受講生が極端に集中し採点で多大なご負担をおかけすることになってしまいました。

昨年よりも受講生が多かったため提出されたレポートも多くなり課題の出題と採点の負担も大きくなってしまいました。ご対応いただいた講師の皆様にも重ねてお礼申し上げます。

さて大好評のうちに今期の寄附講座は終了しましたが法

政大学市ヶ谷キャンパス55・58年館の解体のため来季以降の寄附講座の再開については現在未定となっております。

思えば寄附講座は2013年から開講し2014年、2015年と継続し、いったん2016年は休講して2017年秋学期に再開、2018年春学期と開講してまいりました。

寄附講座は通算で5期、受講生は累積で500名近くにも上るといえることを考えると何とも感慨深いものがあります。

通算5期、5年間実施されてきた寄附講座「実践会社実務論」は法政大学では年度ごとに開講される特殊講義という位置づけとなっていますが法政大学のカリキュラムの中でだんだんとレギュラー化してきた感があります。

「実践会社実務論」でインターネット検索をすると法政大学以外の外部サイト(大学ポータルという日本私立学校振興・共済事業団のサイト)でも法政大学の紹介ページで理論と実践を重視した生きた経営学の授業として寄附講座「実践会社実務論」が挙げられ法政大学OBの公認会計士から会社実務を実践的に学ぶことができると紹介されているのを発見しました。

大学受験生や保護者が閲覧するであろう外部のサイトでも取り上げられる寄附講座「実践会社実務論」は法政大学の名物講義として認知され、もしかしたら外部サイトで寄附講座「実践会社実務論」の存在を大学入学前から知っていた受講生もいるのではないかと思います。

ここまで寄附講座「実践会社実務論」が大きな存在になったのも皆様のご協力があってこそです。

寄附講座はいったん2018年で終了ですが母校法政大学から要請があれば再開するかもしれません。その際には公認会計士法友会会員の協力が不可欠です。

再開が決まった場合は法友会会報もしくは法友会ホームページでお知らせいたします。

講師をやってみたいという方は法友会事務局までぜひご一報ください。公認会計士法友会会員の寄附講座聴講も大歓迎です。

最後になりましたがお忙しい中、寄附講座「実践会社実務論」の講師を引き受けて頂いた公認会計士法友会会員の皆様、重ねてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

母校法政大学と公認会計士法友会の今後の発展を願ってやみません。



ゴルフ大会

石川正敏(昭和58年卒)

第31回CPA十月会コンペのご報告 石川正敏(昭和58年卒)

2018年10月8日(月曜日、祝日)、茨城ゴルフ倶楽部にて、大学対抗ゴルフコンペが開催されました。近場での開催ということもあり、今年も13大学から総勢95名参加という盛大なコンペとなりました。我校からは、11名が参加しました。

大学別の勝負は、上位4名のネットスコアで競い合い、我が校では、和食先生、斉藤さん、蕪澤、小生の成績合計となりましたが、おしくも4位の一ツ橋とネット0.8点差で5位となりました。グロス成績では、3位と1点差で惜しくも4位でした。

開催ルール(優勝後の2年間は1位スコアの場合、準優勝に繰り下げ)によって、今年の優勝は中央大学(実際のネットスコアは、慶応、早稲田、中大の順)です。

コンペ終了後、各賞を持ち寄り、みらい平駅近くの中華料理店にて、打ち上げを開催し、来年の優勝を祈願し大いに盛り上がりました。

来年の十月会も、茨城ゴルフ倶楽部にて、10月14日(月、祝日)に開催される予定です！皆さん、是非、お気軽にご参加ください！お待ちしております。

第20回法友会ゴルフコンペのご報告 伊藤章子(平成14年卒)

2018年9月7日(金)茨城ゴルフ倶楽部の東コースにて、十月会の練習ラウンドを兼ねた法友会コンペを開催しました。参加者は8名と少なかったものの、天気に恵まれ、平日の空いているゴルフ場で、楽しく快適にラウンドできました。成績は、私、伊藤章子がグロス99、ネット71で優勝、佐藤志郎先輩がグロス89、ネット74で準優勝しました。

次回は、2019年4月7日(日)に藤田利弘先輩がいる富山県高岡市にて、開催予定です。参加希望の方は、お気軽にお声掛けください。

※ゴルフコンペ

※オール法政総長杯



ゴルフ関係の、ご参加申込、お問い合わせは下記までお願いします。

e-Mail: ishikawa@aiwa-tax.or.jp

FAX: 03-5715-3318

(あいわ税理士法人 石川正敏宛)

平成29年度定期総会決議報告

事務局より

平成30年7月9日に開催された定期総会では、会報第24号でご案内した内容で可決・承認されました。

報告事項

- ・会員数の推移
- ・法友会活動の活性化について
- ・活動実績全般の報告
- ・会費納入状況について
- ・収支報告

審議事項

1. 活動計画

- ・法友会活動の活性化について
- ・新年度の活動予定事項について
- ・会費納入状況と改善方策の検討について
- ・予算案

決算・予算概要(単位:千円)	H29年度予算	H29年度実績	H30年度予算
会費・寄付金	3,550	2,306	3,550
校友会より	720	300	570
収入合計	4,270	2,606	4,120
総会・祝賀会開催費用	2,110	1,551	1,910
終身会員登録	600	-	600
奨学支援金	550	50	550
その他	1,010	741	835
支出合計	4,270	2,343	3,895
収支差	0	262	225
前期繰越	949	949	1,212
次期繰越	949	1,212	1,437

「第26回法政大学全国卒業生の集い千葉大会」

牧野智成(平成12年卒)

平成30年10月5日(金)から7日(日)の3日間にわたって「第26回法政大学全国卒業生の集い千葉大会」の記念行事が開催されました。千葉在住ということで太田会長のお誘いもあり参加しないわけにはいかず、10月5日(金)の記念ゴルフ大会、6日(土)の大会式典・懇親会に参加しました。7日(日)のエクスカージョン(千葉観光)は都合により不参加とさせていただきます。

5日(金)の記念ゴルフ大会は、キングフィールズゴルフクラブにて全国から90名近くの方々が集まり、ゴルフ場を貸切り盛大に開催されました。支配人が法政OBということで、毎年9月に開催される総長杯も同ゴルフ場で開催されています。格調高いクラブハウス入口には千葉大会の看板が掲げられていました。法友会からは太田会長、和食先生、会計士協会千葉会でもお会いしている藤代先生が参加されました。

当日は一日弱い雨に降られましたが、台風が一週おきに日本列島を通過していたことを考慮すれば悪くはなかったと思います。雨でも水たまりになることはないゴルフコンディションを整えて頂いたゴルフ場には敬意を表したい限りです。グリーンがそもそも早くて難しく、ロングパットだと雨で転がりが悪くなって良く分からなくなり、参加の皆様も苦労されていました。

私のスコアはいつもながらの107(OUT53IN54)で、運よく35位となり飛び賞をいただきました。ゴルフコンペの時は毎度ドラコン狙いですが、今回は強者揃いでして太刀打ちできず悔しい思いとなりました。

今回同じ組でご一緒させて頂いた藤代先生、大会実行委員長の伊藤貞雄様と千葉の話で盛り上がり、楽しい一日を過ごさせて頂きました。

6日(土)の大会式典・懇親会は、幕張メッセの隣のアパホテル敷地内にある、東京ベイ幕張ホールにて開催されました。当日は、前日の雨もあがり気持ちの良い秋晴れとなったので、前日のゴルフがちよっと残念には感じました。会場の面積は約2,000㎡の巨大ホール。ご年配の参加者が多いということで約900名が丸テーブルに着席で、端から端までは400mくらいあり、この大会のスケールの大きさを実感しました。

校友会佐々木会長の挨拶のあと、田中優子総長がご挨拶を兼ね法政大学について講演されました。続いて、榊オリエンタルランド代表取締役社長兼COOの上西京一郎様に記念講演として会社概要からはじまり、ディズニールゾートの今後の展望、社員教育などについてお話いただきました。私個人的には決算報告会のような内容でしたので、違う内容のお話をいただけるとよかったですなと思いました。



懇親会一番の盛り上がりを見せたのは、菅官房長官の入場かなと思います。法政大学OBでもある菅官房長官は公務多用の中遅れて参加いただいたのですが、入場される扉に多くの方が集まりまだかまだかと入場をじらされ、いざ入場したときは大スターのような大きな歓声が上がっていました。法政愛を感じるいいスピーチを頂き感動しました。

食事は千葉産のものを使ったものをふるまっていた頂き、また、アトラクションとして太鼓を打って跳ね回る「銚子はね太鼓」を歓談でき、一人の千葉県民として、参加いただいた皆様に楽しんでいただいていたのではないかと感じました。

応援団・チャリーディングの応援歌披露のあと、最後に参加者全員で肩を組み一つの輪になり校歌を歌いました。合格祝賀会等でも最後は肩を組んで校歌斉唱となりますが、約900人の校歌斉唱は見たこともないものすごい景色で、学生時代に六大学野球で優勝したときに神宮球場で歌ったときのような気持ちのいいものでした。

もし、法政大学全国卒業生の集いにご参加されたことのない会員の方は、この校歌斉唱だけでも味わう価値がありますので、今後開催される全国卒業生の集いに参加いただくとよろしいかと思います。ちなみに来年は徳島での開催ということです。

法友会からは、太田会長・和食先生・藤代先生・山田副会長がご参加され、懇親会の後の2次会までの長丁場色々お話をさせて頂きました。法友会とも親交の深い関連団体の方々も多く参加され、懇親を深めることができました。千葉での開催ということで参加させて頂きましたが、2日間貴重な経験となりました。

なお、私は現在会計士協会千葉会の副会長を拝命させて頂いております。来年2019年9月17日(火)前夜祭、18日(水)記念講演・研究発表・記念パーティー、19日(木)エクスカージョンの日程で、幕張メッセ国際会議場をメイン会場とした「第40回 日本公認会計士協会2019年研究大会 千葉大会」を開催することとなり、実行委員の一人として準備にあたっています。研究大会のテーマは「会計・監査 新時代 ～公認会計士と地域との共創～」です。記念講演の講師としてキッコーマン株式会社の堀切功章社長をお呼びし、地域とのかかわりや事業承継についてお話いただく予定になっております。実行委員の一人として、法政大学全国卒業生の集い千葉大会に負けないようなおもてなしができればと思っており、皆様のご参加をよろしくお願いいたします。



祝 東京六大学野球リーグ戦 6年ぶり優勝！

山田 努（昭和59年卒）

過去の会報に法政野球部への期待・応援を書いてきたが、待ちに待ったリーグ戦優勝を達成されたことを祝福し、優勝記念記事を寄稿する。

今から4年前（平成26年秋）、法政は屈辱の開幕7連敗を喫し、どん底に喘いでいた。さらにエース石田君（横浜DeNA）が卒業するとこの先どうなるのだろうと大きな不安を抱えていた。しかし、その不安は翌平成27年春の開幕戦ですぐに一扫された。高校ジャパンのエースであった森田君が入学し開幕戦にいきなり先発、6人の1年生をベンチ入りさせて3人をスタメン起用し見事な勝利。袴姿でリーグ戦の始球式の大役を果たされた田中優子総長も応援席リーダー台に上がって応援し、法政の黄金時代到来を予感させるものであった。彼ら27年入学組は下級生時代からリーグ戦で大活躍し2年秋の新人戦では圧倒的な力で優勝し、すぐに天皇杯を奪還できると思わせてくれた。しかし、その後も毎シーズン序盤で優勝戦線から脱落することが続き、これだけのメンバー（高校ジャパンのメンバーが各学年に揃うのは法政だけ）をもってしても優勝できないのかと嘆きながらも、ラストチャンスにかける4年生の勇姿を目に焼き付けておきたくて今秋も神宮応援に通った。

（序盤戦）

開幕カードの早稲田戦に照準を合わせ、毎年恒例の北海道合宿を取りやめ武蔵小杉で練習に励んだ成果を発揮し、苦手の小島君（千葉ロッテ3位）を打ち崩した。さらに明治に対しても初戦の土壇場で粘って引分けに持ち込みその後連勝し、久しぶりの開幕ダッシュに成功した。

（天王山）

ここまで勝ち点を落としていない慶應との決戦、特に3回戦は激戦になり、マウンド上で異例の円陣を組んで一死満塁の絶体絶命のピンチをしのぎ、延長戦突入。4年生川口君の熱い思いを乗せた劇的2ランで勝ち越したものの、慶應の粘りに最後は法政が力尽きて敗戦。優勝争いから一步後退するもこの激闘は記憶に長く残る名勝負であろう。

（終盤戦）

慶應との激闘後、中2日での立教戦。2回戦は追いついてもリードされる苦しい展開となったが相手投手のサヨナラボークで連勝。1年生エース三浦君の疲労蓄積や勝ち点4の勝率勝負になる場合を考えるとほんとに大きな勝利であった。リーグ戦最後の戦いとなった東大2回戦ではベンチ入りした4年生12人が全員出場しファンにとっても思い出深いものとなった。

（早慶戦）

早稲田が勝てば法政の優勝が決まる3回戦、ムダ足になるかも知れず躊躇していたが、試合途中から神宮に駆けつけて観戦。慶應が中盤リードするも8回・9回の早稲田の反撃で逆転なるかどうかドキドキ。閉会式で待機する法政選手たちも同じ気持ちであっただろう。あと1イニング0点に抑えれば3連覇達成できた慶應の選手たちにも惜しめない拍手が送られたあと、法政を先頭に六校の選手が入場し閉会式が行われ、向山主将に天皇杯が授与された。その後夕暮れの中で歓喜の胴上げが行われた。

（優勝パレード・祝勝会）

11月19日17時半から小雨の中、市ヶ谷キャンパス～神楽坂を往復する優勝パレードと祝勝会が行われた。公認会計士法友会もたいへんお世話になってきた神谷健司先生が今春から野球部部長に就任されており、中山君（東京ヤクルト2位）のホームラン裏話（後日、中山君本人から実話との証言を入手）などを披露いただき、薩埵ホールを埋め尽くした学生・教職員・保護者・卒業生などオール法政の関係者一同が喜びを分かち合った。

法政が伝統ある東京六大学のうちの1校として世間一般から認められている要因の1つでもある法政野球部が、明治神宮野球場で活躍することは誇りであり、野球部関係者・応援団のみなさまにあらためて御礼と祝福の気持ちを申し上げます。



天皇杯授与される向山主将

オープンカーで笑顔の神谷先生
（野球部部長）天皇杯と各種トロフィーを手に行進する
4年生たちパレード行進する人々（行政書士オ
レンジ会吉田会長のお顔も）

各種参加報告

経営学部同窓会

河西正之(平成元年卒)

2018年6月23日に経営学部同窓会の定期総会・演芸会・懇親会が開かれました。岩井会長は来年60周年の企画をしていること、会員が増えないことへの対策を行うとのことでした。特に会員については、法政大学の職員に在る学部卒業生を積極的に勧誘したいとのことでした。また、トップマネジメントセミナーは就職支援の意味合いで開催してきたため、就職環境が好転している現状では、実施する意味合いから、今年は開催しないかもしれないとのことでした。総会終了後は演芸会が開かれ、学生が落語と奇術の技を披露しました。演芸会終了後は

懇親会となり、演芸会の学生も参加し、なかなか披露する場が無いこと、先輩方と話ができよかったという声が聞かれました。



不動産鑑定士橙法会

太田荘一(昭和52年卒)

平成30年7月3日BT26階A会議室で行われた不動産鑑定士橙法会主催の研修会に和食顧問と太田で出席して参りました。研修テーマは「不動産評価鑑定と会計監査の関わり」ということで、講師は当会の山田努会員が、公認会計士業と不動産鑑定

士業の接点となる減損会計の適用時における不動産の時価評価において、鑑定評価書を監査上どのように取扱うかについて、不動産鑑定士の方々に分かり易く講義され、両士業の連携を強める機会になりました。

明治大学公認会計士会

三浦 太(昭和60年卒)

2018年7月4日(水)、明治大学リパティタワー 23階 岸本辰雄ホールにて定期総会後の懇親会が開催され、太田会長と参加しました。奥山弘幸会長の挨拶で始まり、理事長(柳谷 孝先生)、学長(土屋恵一郎先生)も参加されて祝辞を述べており、大学としての会計士に対する力の入れ方が垣間見えました。また、試験合格者が90名を超えて、中央大学を抜き全国3位に躍り出て大学の勢いを非常に感じました。近年、自習室の充実や初期段階での後輩への学習指導も徹底され、付属高校への指導も進めているようで、色々参考にしないと追いつけないと痛

感する日になりました。中盤からは恒例の現役のマンドリン倶楽部の演奏を聴きながら食事や歓談が進み、最後に校歌斉唱で一同輪になり閉会となりました。



日本大学桜門会計人会

河西正之(平成元年卒)

2018年7月5日に日本大学桜門会計人会の懇親会に山田副会長と参加しました。木田会長は、アメフト問題については言うべきことは言うというスタンスで臨み、また、会計人会の活動をどう活性化させるかについて悩んでいるとのことでした。今年は勉強会を2回

行ったり、ゴルフ会に個人的に参加したりしているものの、もう少し違った方法でできないか、皆様とのネットワークを広げ、仲間と交流を深めていきたいとおっしゃっていました。

青学会計人クラブ

飯塚 昇(昭和49年卒)

平成30年7月5日、第37回青学会計人クラブの総会後に行われた懇親会に、太田会長とともに出席しました。当会の宮 直仁副会長と私が同じ監査法人に勤務していたことから懇親会へのお誘いを受け、初めて出席させていただきました。会場は、大学関係者がよく結婚式を行うアイビーホール青学会館で、青学らしい雰囲気があり、中村まづる経済学部長ほかの大学関係者と、中央、明治、早稲田、慶応、専修、駒澤、神奈川、富士、日大などの公認会計士及び税理士の各団体代表

が、多数、来賓として出席していました。青山会計人クラブは、幼稚園・初等部から大学院までの青山学院大学関係の学校で学んだ公認会計士と税理士が会員であり、宮副会長も出身大学は中央大学とのことでした。懇親会での会話からも極めて幅広く多彩な会計プロフェッショナルの組織と感じました。今後とも継続して交流を深め、法友会活動のあり方の参考にしていければと思います。

公認会計士白門会

河西正之(平成元年卒)

2018年7月6日、公認会計士白門会の懇親会に飯塚副会長と参加しました。ちょうど、その日は会計士制度発足70周年の日で、会長から、白門会ができて25年たち、会計士の業界は様変わり、大変な変化が起きている状況との挨拶がありました。アメリカにおけるエンロン、日本における鐘紡、オリンパス、東芝といった不正会計、最近の英国におけるカリリオンの監査に対する疑念など、監査現場は非常に大変な状況になった。品質管理の強化、何重のチェック、これらをクリアするための現場の対応が大変になっており、その結果、若手の退職につなが

ていると思う。我々はこの業界を魅力あるものにし、もっと人が来てくれるようにならないといけない。と展開されました。その中で、白門会は後進育成のために大学で講座を受け持ち、年間15回程度、先輩会計士が自分の体験談を後輩に伝えることをしている。また、AI時代を生き抜く会計士と題して手塚常務理事より講演をいただいたそうです。我々が対処すべき、検討すべき課題はまだまだあるとの認識を持っており、そういうことについて大学や他大学の皆様と協力をしていきたいとのことでした。

専修大学会計人会

越智一成(平成7年卒)

平成30年7月18日(水曜日)、専修大学神田キャンパスにて、第50回専修大学会計人会定期総会と懇親会が開催されました。法政大学法友会からは、石川正敏副会長と私の2名が参加し、専修大学関係者及び来賓など約60名の出席者と交流し有意義な時間を持つことができました。佐々木学長からのあいさつでは、「専修大学の会計教育100周年、会計学科設立50周年の節目の年」とのご説明がありました。おめでとうございます。



法政会計人会

渥美龍彦(昭和58年卒)

2018年9月20日(木)、法政会計人会第21回定期総会が開催され、それに伴う講演会と懇親会に、太田会長と渥美が参加しました。講演会は、「中小企業と事業承継税制(…未だ会社法174条にこだわって)」をテーマに、白井輝次税理士によって、ポアソ

ナードタワー25階の会議室で行われました。25階スタッフクラブに場所を移しての懇親会では、法政大学校友会の佐々木会長、法政士業の会の各会関係者などの方々も交えての歓談、最後はいつものとおり校歌斉唱となりました。

東京六大学野球リーグ戦観戦

河西正之(平成元年卒)

2018年10月7日、経営学部同窓会からのお誘いもあり、法政vs慶応戦を観戦しました。1回裏に先制点をとったものの、2回表で逆転、その裏で同点に迫りました。その後、一進一退が続き、最終回で逆転され、嫌なムードが漂う中、同点に迫りました。ただ、プロ野球戦が控えているため、延長はありません。そのため、何とか逆転できないものかと応援にも熱がはいりました。もう終わりかと思ったその瞬間、まさかのポークにより、逆転勝ちとなりました。なんとドキドキハラハラの試合展開でした。



※試合開始時の整列写真です。

法政大学法曹会

太田荘一(昭和52年卒)

平成30年10月9日アルカディア市ヶ谷で行われた法政大学法曹会・法政大学法科大学院共催の司法試験合格祝賀会に出席して参りました。今年度の本学出身の司法試験合格者は27名で、合格者数、合格率ともに前年度を上回り、全国大学ランキングも大きく順位をアップされました。近年の合格者減少の

危機感から大学側の法科大学院へのでこ入れが功を奏したものであると思われま。是非、公認会計士試験合格者もこれに倣って多くの合格者が出せるような学内体制の整備を望むところでありま。士業の会を代表して司法試験合格者の前途を祝しました。

「2018年簿記チャンピオン大会開催」

三浦 太(昭和60年卒)

毎年、在校生を対象にした簿記チャンピオン大会を行っていますが、今年は11月10日の土曜日夕方に開催されました。この大会は、在校生の会計スキルを磨くために高度会計人育成センターが主催して毎年行われているイベントです。大学入学後にセンターが簿記の基礎を教えるカリキュラムを提供して、その成果として秋に大会を開催し当日夕方に懇親会と成績優秀者の表彰式を執り行うものです。

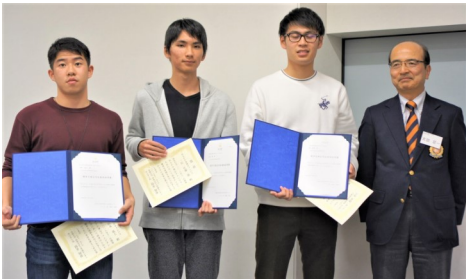
参加者は市ヶ谷本校舎の経営学部が中心になっていますが、多摩校舎の経済学部生徒もかなり参加していました。ここに至るまでの授業は専門学校のTACの協力の下で優秀な講師を派遣してもらい、市ヶ谷校舎と多摩校舎でそれぞれ同じカリキュラムが春から展開されてきており、学生と講師は信頼関係の中でスキルアップをしてくれているようでした。

懇親会では既に公認会計士試験にも挑戦中の三年生、四年生も顔を出して後輩の健闘を労って、色々と歓談をして和やかな雰囲気の中で時間が過ぎて行きました。学生のため飲み物はソフトドリンクのみでしたが、食べ物はお寿司や色々な惣菜が振舞われ、参加した学生は歓談しながらお腹いっぱいになっていたようです。なお、公認会計士法友会から、マドレーヌの差し入れを行いました。

また、公認会計士法友会からは太田会長をはじめ数人が参加して、会長が来賓挨拶を代表して行い、学生の健闘を讃え、成績優秀者(今回は同点の学生がいたため、上位7名となりました)に対して公認会計士法友会から奨学支援金給付証(一律5万円)の授与が行われました。この奨学支援金制度は法友会会員の皆様からの寄付を原資として一昨年より実施しているもので、対象者には公認会計士試験短答式受験を条件として専門学校費用の一部に充てるための奨学金を援助しているものです。

奨学支援金を受け取った2名が、この11月に発表された公認会計士試験に合格していました。支給した側としても、大変うれしく思います。

近年、本学からの公認会計士試験合格者数が他大学に比べて遞減傾向にあり、OBとしての皆さんも危惧していると思いますので、センターの現役生の会計スキルの底上げ強化を是非今まで以上に実行してもらいたいと感じた1日になりました。



※対象者は7名でしたが、成績発表まで残っていた人は3名でした。
この中からも、来年、公認会計士試験合格者が出ることを期待します。



全国大会会計人会サミット

河西正之（平成元年卒）

2018年10月13日に駿台会計人倶楽部主催で第22回全国大会会計人サミットが明治大学リバティタワーで開催されました。公認会計士法友会からは太田会長、酒井監事、河西の3名で出席いたしました。

名誉実行委員長 金井塚清氏の挨拶で始まりました。第1回は20年前に駿台会計人倶楽部主催で開催され、一巡して、2回目の担当となったそうです。千葉県税理士会 会長 杉田慶一氏の挨拶では、このサミットは関本先生の提唱で始まったものであり、職業会計人の団体を作って、中小企業の良きパートナーになるべく人材育成のため、各大学の職業会計人の団体の交流を図ることを目的としているとのことでした。

実行委員長 岩田俊一氏からは、今回のテーマについて説明があり、明治大学士業会の協力を得て「事業承継の実務」としたとのこと。このテーマは、平成25年に行ったものをリメイクしたもので、最後は明治大学の山本教授にまとめていただくことにしたそうです。明治大学士業会は平成11年に結成され平成23年に正式に組織として設立。弁護士、会計士、行政書士、社会保険労務士、司法書士、不動産鑑定士、弁理士、税理士の8士業で構成され、今回のテーマはそのうちの7士業で行ったとのこと。士業が連携して統一テーマで研修会を開催したことは素晴らしいと思います。

来賓挨拶では、サミット式典では、日本税理士会連合会 会長 神津信一氏と千葉県税理士会 会長 杉田慶一氏が行いました。神津氏は、今回のサミットの引受校の苦労話をされていました。神津氏が駿台会計人倶楽部の岩田会長に何度も電話をして引き受けていただいたそうです。

サミット会議は7士業の方が、それぞれ、「事業承継の法務について」（弁護士）、「特例事業承継税制と中小企業強化策」（士業会名誉顧問）、「事業承継税制の実務」（公認会計士）、「中小企業の事業承継計画について」（行政書士）、「人的資産に関する事業承継の課題等」（特定社会保険労務士）、「事業承継に対する視点について」（司法書士）、「不動産を活用した事業承継対策」（不動産鑑定士）について、講演をし、最後に総括として経理研究所所長・商学博士の山本氏が行いました。その後、サミット宣言が採択されました。

会議後の懇親会では、実行委員の増田氏による開会の辞の後、来賓挨拶が行われました。明治大学の常勤監事、東京税理士会会長に続き、日本公認会計士協会 副会長 山田治彦氏と日本公認会計士協会東京会 副会長 峰岸芳幸氏、明治大学士業会会長の挨拶と続きました。

山田氏は関根会長から預かった手紙を代読され、人口減と少子高齢化の中で税理士・会計士の受験生の減少が続いている事実とそれへの危機感、減少を防ぐための若年層への資格の魅力のアピールし、すそ野の拡大が大事であること、また、税理士・会計士はAIに取って代わられる、勉強までして取得する資格なのかとと思っていることへの誤解を解消することが大事と力説されていました。

最後は校歌斉唱でお開きとなりました。

全体を通じて感じたのは、各大学の会計人は税理士が中心となっているところも多く、サミットのテーマ、運営は税理士中心となっているということでした。公認会計士の参加者はだんだん減っている感じがあり、会計人の集まりとして、どのようにしていくのか、難しい課題と考えます。



サミット会議中（酒井監事）



山田治彦副会長



峰岸芳幸東京会副会長

公認会計士法友会事務局
〒169-0074
東京都新宿区北新宿4-19-15 正和ハイツ301
E-mail: hosei.hoyukai@gmail.com

母校の発展と後進育成への貢献を
目指して活動しています。

11月末現在の会員数 725名

ホームページもご覧下さい。
http://hoyukai.la.coocan.jp/
IDはhoyukai
パスワードはrokudaigaku103
(平成31年1月26日より)



編集後記

この号がお手元に届くころには第95回箱根駅伝の結果がでてますね。六大学野球は優勝をしましたし、箱根駅伝も勢いに乗って欲しいと思います。自宅近くを走りますので、今年も応援に行こうと思います。

さて、平成31年1月26日に公認会計士試験合格祝賀会が開催されます。平成最後(あちこちで言われるフレーズですね)の祝賀会です(合格者は平成最後の合格者ですね)。ぜひ、ご参加をお願いいたします。ちなみに、私は昭和最後の2

次試験合格者でした。あれから30年経つんですね。月日の経つのは早いと感じるこの頃です。

また、翌日の1月27日はオール法政新年を祝う会が開かれます。全国から集まってきますし、法友会メンバーも10名は参加する予定です。



物故者について

今年度において、下記の会員の方が永眠されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。
故 磯部 勝弘(昭和51年卒)

年度会費及び寄付金のご協力のお願い

法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金で賄われておりますが、合格祝賀会などの行事開催費、通信費などの運営諸経費、他校の会計士団体への参加費、慶弔費などの支出が必要で、会員各位のご理解とご協力なくしては、持続的な活動が出来ません。

最近、会費及び寄付金を納めていただける方が固定化し、また、減少傾向にあります。一方、会員の増加で、定期総会や合格祝賀会のご案内にかかる通信費、会報や住所録の作成費用が増大しています。皆様の、ご理解とご協力を強くお願いする次第です。

今回の会報発送とともに、平成30年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)会費の納入と寄付金のお願いをさせていただきます。

また、平成28年度から「公認会計士試験挑戦者に対する奨学支援金制度」(以下、奨学支援金)がスタートしており、この支援金は会員の皆様からの会費及び寄付金で賄われることとなります。

毎年、寄付金等をお支払いいただく際に、いったいいくら納入すればよいのか分からないなどのご意見・質問が寄せられます。法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金の納入で支えられていますが、皆様に大きな負担を感じさせるのは本意ではありません。あくまで会員の皆様のご厚意をお願いするものであります。

年度会費の5,000円だけでも結構ですし、年度寄付金・校友会寄付金・奨学支援金・その他寄付金などの寄付金として寄付金5,000円(一口)を加えて合計10,000円を納入いただければ助かります。

もし、ご理解をいただけるのであれば、年度会費の5,000円と寄付金の10,000円(二口)、合計15,000円を納入いただけますと大変助かります。

振込先を記入した郵便振替口座用紙を同封させていただきましたが、銀行振込をされる場合は下記の口座をお願いいたします。

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 東中野支店(店番152)
普通預金・口座番号 1559256 口座名・公認会計士法友会
<連絡先> 〒169-0074 東京都新宿区北新宿4-19-15 正和ハイツ
公認会計士法友会事務局
080-8886-0375 / hosei.hoyukai@gmail.com

Books!

書籍の出版情報を事務局までお寄せください。会報に掲載いたします。その際に、執筆者からの一言(書籍の宣伝でもOK)も併せてお願いいたします。

以下の執筆情報をいただきましたので、掲載いたします。



立場別・ステージ別 ストック・オプションの活用と実務[第4版]
著者: 山本成男会員(平成6年卒) 出版: 株式会社中央経済社

※書籍寄贈中止のお願い

会計大学院(イノベーション・マネジメント研究科アカウントング専攻)の廃止に伴い、書籍を開架しておく場所が無くなってしまいました。新しい場所が見つかるまで、書籍の受入は中止させていただきたく、お願いいたします。この場合でも、出版情報は引き続き掲載したいと思っておりますので、お寄せいただきますよう、お願いいたします。